

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年7月30日から平成30年12月17日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B15018、050222、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年10月現在）

事業所名： （施設名） 長野市長沼保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 75名（66名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和49年4月1日
所在地：〒381-0002 長野県長野市津野462-1	
電話番号： 026-296-9753	FAX番号： 026-296-9753
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員： 16名
専門職員	（専門職の名称） 名
	・園長 1名
	・保育主任 1名
	・保育士 10名
施設・設備 の概要	（設備等）
	・乳児室 … 1室 ・保育室 … 5室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室
	（屋外遊具） ・三間鉄棒 ・雲梯 ・複式滑り台(使用停止中)

3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 （長野市乳幼児期の教育・保育の指針より）</p> <p>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しののキッズ</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>

【教育・保育の基本方針】

- 健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う
- 感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる
- 自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
- 人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考え受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践
- 家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います
- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○長沼保育園 保育方針

- ・一人ひとりの「やってみたい」を大切にし、のびのびと自分を表現できるよう愛情を持って保育します。
- ・子育ての悩みや子どもの成長の喜びを感じながら保護者と共に歩んでいきます。

○長沼保育園 保育目標

- ・地域の人々とのつながりを大切にしながら自然と触れ合い、楽しく遊ぶ。
- ・おなかをすかせて、楽しく給食を食べる。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当長沼保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、昭和49年3月まで私立保育園として運営されていたが、同年4月長野市に移管され、以降、長野市が運営している。

当保育園の前身は、昭和32年6月に、現在園のある同じ地籍にある正覚寺の敷地に開設された「聖徳保育園」で、68名の子どもたちでスタートし、800有余名の卒園生を輩出したという。その後、昭和49年4月に長野市に移管され長野市立長沼保育園となり、未満児室のトイレの改修や公立保育園として初めての耐震工事を実施し現在に到っている。

当保育園は市内東北部の長沼地区(赤沼、津野、穂保、大町の4区)の津野地区内にあり、国道18号線(通称アップルライン)から東に50mほど入った場所にあり、長沼地区から豊野地区にかけての国道沿いにはリンゴ畑やリンゴの直売店が軒を並べ、秋の収穫期にはリンゴ狩りも楽しむことができる。当園の敷地は広く、周りにはリンゴ畑が広がり、自然が豊かで、子どもたちの散歩や遊びのフィールドも広い。

こうした中、多くの子どもたちの居住区である長沼地区は元禄元年(1688年)に取り壊された長沼城を中心とした城下町で神社仏閣も多く、また、初期の北国街道の宿場町としての面影も残しており、由緒ある歴史の町ということから住民同士の絆は強く、昭和60年から継続している当地特産のリンゴを一籠提供する「愛の一籠運動」の収益金は乳幼児育成助成金や児童センターの運営費への

補助金など、地区の福祉事業全般に役立てられており地区住民の温かい助け合いの心が伝わってくる。

当保育園の近くには園の多くの子どもたちが就学する長沼小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の児童と交流し、小学校の音楽会、運動会などで様々な体験をし、入学への期待を膨らませている。また、すぐ隣には児童センターがあり、そこで実施される催しなどにも参加し利用する小学生ともふれ合っている。

現在、当園には0歳児3名・1歳児2名のトトロ組、2歳児6名のタータン組、2歳児12名のノントン組、3歳児12名のつき1組、4歳児14名と5歳児16名のちきゅう組(年齢別の活動の時には4歳児のほし組、5歳児のたいよう組に分かれる)の五つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体の計画(保育課程)」の下、職員全員で考えた「目標」、「地域の人々とのつながりを大切にしながら自然と触れ合い、楽しく遊ぶ」、「おなかをすかせて、楽しく給食を食べる」に沿い、生活上の自立や学びの自立、精神的な自立を養えるように保護者と連携を取りながら全職員が意思統一を図り子どもたちを支援している。

また、当園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障害児保育、おひさま広場(未就園児との交流)等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者がいる。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援している。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。更に、「おひさま広場」を週1回実施しており、未就園児と保護者対象に子育て相談を行い、園庭も開放し、当保育園の子どもたちとも交流しながら遊ぶことができるようになっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、「長野県自然型保育の充実」、「平成30年度福祉サービス第三者評価の受審」、「長野市運動プログラムの充実」、「運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ること」、「平成32年度福祉サービス第三者評価の受審」等を掲げ、積極的に取り組んでいる。

職員も当園の事業計画の重点課題の「保育内容の充実」として、自然を生かした保育を行うこと、地域資源と人材を生かした保育を行うこと、異年齢保育の充実、小学校との連携等に具体的に取り組んでおり、職員一人ひとりが園内外の研修に参加したり、公開保育や訪問保育などに携わることで、より質の高い保育を目指し、子どもたちの成長の過程を見守り、適切な働きかけを行っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1)防災対策の充実

当保育園のある長沼地区は寛保2年(1742年)、千曲川や周辺の中小河川からあふれた大洪水「戊(いぬ)の満水」の教訓を後世に生かすため毎年6月29日を「長沼地区防災の日」とし地域住民が一体となり水防訓練を実施している。当保育園でも年長児と職員がこの訓練に毎年参加し、また、園として消防計画の他に水防計画を策定し、小学校や近くにある大手運輸会社の長野支店、消防団、各区長とも非常時に連携がとれるようになっている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅲでも『育ちを守る』教育・保育環境の充実」と掲げ、その3の「防災・防犯対策や交通安全対策の充実」として「水防計画などを作成し防災計画を高めるとともに」とし「確実な避難誘導ができる行動力を身につける」としている。

園としての「危機管理マニュアル」があり、地震、火災等それぞれの対応が明確に決められて

いる。年 12 回行う避難訓練の内の数回は事前予告なしに実施しており、緊張感を持って訓練を行い、園での安全確保にしっかりと向き合っている。地域のハザードマップに示されている園周辺は水害のおそれがあり、保護者へは「災害時引き渡し確認表」にて引き渡しを行うが、兄弟姉妹関係の家族への連絡は下のこどもを基準に連絡を取ると決め、担任が速やかに行動できるように体制を整えている。また、地区の住民自治協議会の「水防避難確保計画」では地域の人々や消防署、駐在所等と連携をとるようにしている。

「非常品持ち出し品」については園長が管理し、備蓄用の食品等の賞味・消費期限も確認を行い、園内の調度品等も落下や転倒防止のための固定化をするなど、防災に対する意識や行動力の大切さについて職員に伝え方が一に備えている。

2) 自然環境を活かした保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針 I で『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その 1 の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」等としている。

当保育園は、既に平成 28 年に「信州型自然保育(信州やまほいく)」の認定園となっており来年度には 3 年の更改期を迎える。

当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)にはリンゴ園のあぜ道、千曲川の桜堤(土手)、公園や神社、小学校、市役所支所、高齢者介護福祉施設、JA の直売所などがイラストや写真などでマークされており、四季折々、草花や木の実を見つけたり虫を捕まえたりして自然や動植物に親しみ伸び伸びと楽しく遊び、リンゴ畑で作業に勤しむ人々と挨拶を交わしたり色々なことを教えていただいている。

また、散歩コースで捕まえたドジョウやメダカ、オタマジャクシ、カエル、ザリガニ、カエル、カブトムシなどを園に持ち帰り飼育したり、段ボールを使用し堆肥をつくり広い敷地内でピーマンやミニトマト、キュウリ、ナス、ニンジン、玉ネギ、稲、マコモダケなどを保護者や地域の人々からの指導を受け栽培し、その生長を観察し、収穫したものを給食食材として使用するなど、「食」の大切さも学んでいる。当園では子どもたちがランチオンマットを手づくりしており、年長児は草花のたたき染めをしたものを、年中児は園庭の草花の押し花を、年少児は給食で使った青菜の切り株でスタンプを押したものをそれぞれラミート加工し制作活動の一環としても楽しんでいる。

当保育園の周囲は広大なリンゴ園に囲まれて、園児たちは十分な自然環境の中で生活しているが、一方で、周囲の自然環境の生産物(リンゴなど)は、生活の糧であり、農地は不可侵の場所でもあるということ幼児期から学び、社会のルールを身に着ける教材としても有効に活用している。

異年齢のクラスで散歩に出掛けることもあり、身近な自然の中で教えたり、教えられたりして様々な事物と触れ合いながら「自然体験」をしたり、また、野菜や植物などを育てる作業を通じて「生活体験」などをし、自然に「生きる力」を身に付けている。

3) 地域の人々との交流

当保育園の保育目標では「地域の人々とのつながりを大切にしながら自然と触れ合い、楽しく遊ぶ」としており、年間の事業計画や「全体の計画(保育課程)」にも具体的に掲げ、子どもたちが歴史ある地域の文化に触れ、地域に親しみや愛情が持てるように位置づけて実践している。

地元長沼地区や長沼住民自治協議会などと積極的な連携を図り、子どもたちが地域の社会で色々な体験ができるようにしている。園近くの特別養護老人ホームの高齢者との「世代間交流」、その施設の「お祭り」、隣接する児童館の催し、長沼住民自治協議会などで実施されるふれあい会などで地域の様々な人々と交流している。また、住民自治協議会が主催する水防訓練に年長児と職員が毎年参加し、地域の関係者や機関とも非常時に連携がとれるようになっている。地域のボランティアによる太鼓の演奏、読み聞かせ、サッカー教室なども行われている。

また、「長野市子ども・子育て支援事業計画」に「乳幼児と触れ合う機会の提供」として地域の学校教育等への協力についての姿勢が明文化されており、中学生の職業体験や家庭科授業の一環としての体験の受け入れ、実習生の受け入れなどが可能となっている。更に、小学校とは年長児が一日入学や運動会の旗拾い、来入児検診、年 5 回の小学校校庭での遊び等で交流をしている。

毎週木曜日には未就園児とその保護者の交流の場としての「おひさま広場」を開き、園内外で遊んだり、幼児と交流したりできるようにしている。また、子育て相談に応じたり、講演会や講習を行ったり、子育て支援センターで行われる父と子のふれあい事業の開催にも関わったりしており、主任が地域の保健センターに出向き、4ヶ月健診で情報等の提供を行ったり、各地域の公民館で開かれる子育てサロンの出前講座などで相談に乗ったりもしている。

4) 風通しの良い職場風土

園児数・職員数的にも、コミュニティーを構築するにはほど良い規模で、子どもたちと職員の関係も双方向で、全員が仲の良い友だちであり、全職員が全園児と親しく接し、名実ともに「ゆきとどいた」全員保育を実践している。また、規模的な要素もあるが、職員の関係がアットホームで、なおかつ組織として機能しており、全職員参加方型の建設的な園運営が実施されている。

当保育園は築40数年が経過した木造の平屋建てで、段差や使い勝手に不便さを感じたり安全面でやや不安な部分も見られるが、職員が手作りしたり自ら改修を手掛けるなど、随所に創意工夫が見られ子どもたちの安全に配慮している。水回りの転倒防止マットを床に固定止めしたり、各クラスの出入り口のドアストッパーの取付、トイレの段差の解消のために牛乳パックを使った箱状の物を整えたり、プールのプライバシー保護のためのよしず・ブルーシート張り・日よけ用の寒冷紗張り、子ども達の運動能力、特に足首を鍛えるための園庭にある築山（土管トンネル付き）の土盛り改修作業等が職員自らの手で行われ、子ども達の健康と安心に繋げている。また、年長児の発想から使用していないブランコを骨組みにし、藁を使い隠れ家づくりをするなど「やりたい」という気持ちを大切にし、好奇心や探求心などを考える力へと変えている。

更に、園長以下の全方位的な気配りの下、子ども達に対しても、また、職員間においても頻繁な声掛けが励行されており、「できた」・「できなかった」ではなく、「楽しんでいたか」を大切に子どもが頑張ろうとする姿を認めようとする姿勢が保育の根底にあり、職員間の風通しの良さも感じられた。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 保護者との更なる細やかな情報交換

立地的にいうと開園当時の保護者の大半は地元の果樹農家であったと思われるが、長沼地区は農業振興地域として、今後も、ニューファミリー層の増加の難しさが予測され、また、農業離れや核家族化も進んでいることから、現在、ほぼ半数が同じ小学校区以外に居住する子どもたちとなっている。

このような域外からの子どもたちが増加する中、保護者の送迎時間には余裕がなく職員との会話も減少傾向にあるものと思われ、保護者との情報交換の機会を作り出す工夫が従来以上に求められてくるのではないかと思われる。

また、同様に、域外から通園する子どもが増加する中、保育園そのものの性格も「地域の子どもが通園する園」から「地域に存在する園」に変化しつつある。そうした状況下、保護者の横のつながりや保護者と職員との更に密なる関係作り、地域との新たな関係づくりが必要になってきているのではないかと思われる。

子どもの生活は家庭から保育所へ、保育所から家庭へと連続しており、保護者と職員との相互理解は子どもの安定的な保育には欠かせないものではないかと思われ、保護者と職員の信頼関係は相互の意思疎通の積み重ねによって成り立っていくことから、子どもに関する情報の交換を更に細やかに行われることを期待したい。

2) 施設の整備

当保育園は築40年以上で、機能面で抜本的なりニューアルを要する個所も出始めているように思われる。職員の配意と工夫だけでは補えない部分もあり、所管部署との認識の共有と対応が必要な時期に差し掛かっているものと思われる。

保育の環境には子どもや保育士等の人的な環境、施設や遊具などの物的環境、更に、自然や社会の事象などがあるとされており、こうした人、物、場などが相互に関連し合い子どもたちの豊かな生活に繋がるものと思われる。

子どもの活動が豊かに展開されるように設備面での環境を整え、特に、保健的環境や安全面で

の整備について、園単独では難しいと思われる箇所もあるので関係部署と相談しながら計画的に取り組まれていくことを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年12月17日記載）

長野市は第三者評価受審の2年目となる。当園は初めての第三者評価受審にあたり不安や緊張があったが、コスモプランニング様の丁寧な説明を受けて徐々に緊張もほぐれた。訪問調査は、平常と変わらぬ雰囲気の中で保育や面談に臨むことができ、無事終えることができた。

良い評価をいただいた内容については今後も継続し、改善すべき課題については園内研修や話し合いを行い、改善していく。

- ・保護者との更なる関係作りでは「地域の子どもが通園する園」から「地域に存在する園」へ変化していることを意識し、保護者間のつながり・保護者と職員との密な関係作り・地域との新たな交流について考え実践していく。
- ・施設整備については人的環境・物的環境を関係部署と相談しながら子どもの活動が豊かに展開されるよう整えていく。また、安全面では地域の関係機関と連携を取り、災害対策・危機管理への意識を高めていく。

受審に向けて職員全員が気持ちを一つにして、第三者評価に対する理解や保育の振り返り・環境整備・マニュアルの確認等に取り組み、園全体の保育の質の向上につなげることができたと思う。

アンケート結果から園の取り組みについて保護者に理解していただくことの難しさを感じた。今後は更に保育実践を「可視化」し、「自園では何を大切に、どんな子どもを育てようとしているのか。そのために、どのような取り組みをしているか。」をわかりやすく伝えると共に、保護者の思いを傾聴し、信頼関係を深めて、共に子どもの育ちを支えていきたい。